# 2020. **6**No. **202**

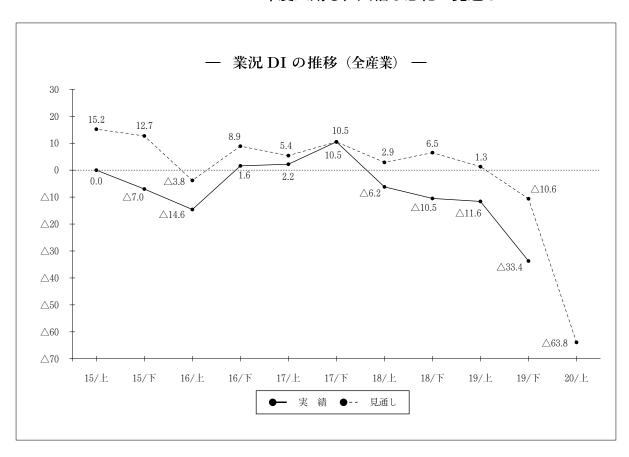


# 第88回県内企業経営動向調査

要				約	 2
1	業			況	 3
2	生			産	 4
3	売			上	 4
4	在			庫	 5
5	仕力	し・貝	反壳值	西格	 6
6	収			益	 7
7	資	金	繰	Ŋ	 8
8	設	備	投	資	 9
9	経営	堂上0	り問題	直点	 12
10	雇			用	 14

⑪ 山梨中央銀汗

# ── 2019 年度下期の業況は、4 期連続のマイナス2020 年度上期も、大幅な悪化の見通し ──



#### ● 調査実施要領

 調査目的:県内主要業界の経営動向把握 を通じて、県内景況判断資料

を作成する。

2 調查対象:県内中堅・中小企業352社

3 調査対象期間

2019年10月~2020年3月期(実績) 2020年4月~2020年9月期(見通し)

4 調査方法:記名式アンケート調査

5 調査時点:2020年4月上旬

6 回答状况:有効回答数293社

有効回答率83.2%

※ 当レポート中の業種分類において、「電気機械」には 「情報通信機械」、「電子部品・デバイス」も含む。 また、山梨県鉱工業生産指数の業種分類変更に伴い、旧「はん用・生産用機械」のうち旧「はん用機械」 と旧「業務用機械」を統合して「汎用・業務用機械」に変更した。

	業種		回答企業数	構成比
製		集	153 社	52.2 %
	食	品	16	5.5
	ニッ	<b>١</b>	5	1.7
	織	物	12	4.1
	製	材	5	1.7
	家	具	3	1.0
	和紙 • 紙製	品	10	3.4
	宝	飾	18	6.1
	電 気 機 械(%	<b>(</b> )	23	7.8
	生産用機械(%	<b>(</b> )	20	6.8
	輸送機	械	11	3.8
	汎用•業務用機械(	<b>%</b> )	22	7.5
	プラスチッ	ク	8	2.7
非		集	140	47.8
	建	設	25	8.5
	卸	売	21	7.2
	小	売	27	9.2
	ホテル・旅	館	19	6.5
	運	輸	15	5.1
	レジャ	_	12	4.1
	サービ	ス	21	7.2
全	産	業	293	100.0

#### 要約

#### 1. 業 況

2019 年度下期は、4 期連続のマイナス(「悪い」超)となった。県内企業の景況感は、海外経済の減速や消費税増税の影響がみられたほか、年明け以降は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う移動制限や需要減退により、製造業、非製造業とも足元で急激に悪化している。

2020年度上期は、製造業、非製造業ともに大幅な「悪化」超となっている。

#### 2. 生 産

2019 年度下期は、「減少」超となった。 2020 年度上期は、引き続き「減少」超と なっている。

#### 3. 売 上

2019 年度下期は、製造業、非製造業ともに「減少」超となった。

2020年度上期は、製造業、非製造業とも大幅な「減少」超となっている。

#### 4. 在 庫

2019年度下期は、製造業、非製造業ともに「減少」超となったが、在庫水準は製造業、非製造業ともに「過大」超が続いている。

2020年度上期は、製造業が引き続き「減少」超となっている一方、非製造業は「増加」先と「減少」先が同数となっている。

#### 5. 仕入•販売価格

2019 年度下期は、仕入価格が「上昇」超となった一方、販売価格は「下落」超に転じた。 2020 年度上期は、仕入価格が「上昇」超となっている一方、販売価格は「下落」超となっている。

#### 6. 収 益

2019年度下期は、製造業、非製造業ともに「減少」超となった。

2020年度上期は、製造業、非製造業ともに大幅な「減少」超となっている。

#### 7. 資金繰り

2019 年度下期は、製造業、非製造業とも に「悪化」超となった。

2020年度上期は、製造業、非製造業ともに引き続き「悪化」超となっている。

#### 8. 設備投資

2019 年度下期は、実施率が前期を下回った ほか、投資額も引き続き「減少」超となった。 2020 年度上期は、実施予定率が前期実績 と同水準を見込む一方、投資額は「減少」超 となっている。

#### 9. 経営上の問題点

「売上不振」が最多で、以下、「従業員の高齢化」、「収益悪化」、「人材・技術不足」、「労働力不足」と続いた。前期と比較すると、景気が急速に冷え込んだことを背景に「売上不振」が大幅に上昇したほか、「収益悪化」、「資金繰り難」など関連する項目も上昇した。一方、労働需給の逼迫感が薄れたことから、「労働力不足」が大幅に低下した。

#### 10. 雇用

2019年度下期は、製造業、非製造業ともに引き続き「不足」超となった。

今後の対策は、「現状維持」が最多で、以下、「正社員の採用」、「アルバイト・パートの補充」と続いている。前期と比較すると、「正社員の採用」が大きく低下しており、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い景気の先行き不透明感が強まっているなか、正社員の採用に対する企業の慎重姿勢が窺える。

#### 〔注〕 DI について

DI(デフュージョン・インデックス)は、景気動向調査における回答企業の業況判断を指数化したもので、「良い」(または「好転」、「増加」等)と答えた企業の割合と「悪い」(または「悪化」、「減少」等)と答えた企業の割合との差である。

例えば、業況について回答した企業のうち、30%の企業が「良い」と回答し、10%の企業が「悪い」と回答した場合、業況 D I は 30% - 10%で 20 となる。なお、「良い」と回答した企業が多い場合(D I がプラスの場合)は「良い」超、悪い」と回答した企業が多い場合(D I がマイナスの場合)は「悪い」超と表現する。

#### 1 業 況

#### 2019 年度下期実績

全産業の業況実績DI(「良い」-「悪い」)は、 △33.4と前期(△11.6)と比べて21.8ポイント低下し、4期連続のマイナス(「悪い」超)となった。県内企業の景況感は、海外経済の減速や消費税増税の影響がみられたほか、年明け以降は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う移動制限や需要減退により、製造業、非製造業とも足元で急激に悪化している。

製造業は、△35.9と前期(△22.4)と比べて13.5ポイント低下した。このうち機械関連では、輸送、汎用・業務用、生産用、電気の全機械が「悪い」超となった。特に、輸送機械は「悪い」と回答した先が7割以上を占めた。機械関連以外も、すべての業種で「悪化」超となっており、特に、織物、製材、宝飾で「悪い」の回答比率が高くなっている。

非製造業は、 $\triangle$  30.7 と前期( $\triangle$  0.7)と比べて 30.0 ポイント低下した。サービス、建設が「良い」超となった一方、ホテル・旅館、運輸、レジャー、卸売、小売は「悪い」超となった。特に、ホテル・旅館では「悪い」と回答した先が9 割弱を占めた。

#### 2020年度上期見通し

全産業の業況見通しDI(「好転」-「悪化」)は、△63.8と大幅な「悪化」超となっている。見通しDIとしては、昭和52年の調査開始以降で最低水準であった2010年度下期調査(東日本大震災直後に実施)の△46.8を下回っており、新型コロナウイルス感染症の終息時期が見通せないなかで、先行きに対しても非常に厳しい見方がなされている。

製造業は、△64.7 と「悪化」超となっている。このうち機械関連では、輸送、電気、生産用、汎用・業務用の全機械が「悪化」超となっている。機械関連以外においても、宝飾で全先が「悪化」と回答するなど、すべての業種で「悪化」超となっている。

非製造業も、 $\triangle$  62.9 と「悪化」超となっている。すべての業種で「悪化」超となっており、特にレジャーで 9 割以上、ホテル・旅館、運輸で 8 割以上の先が「悪化」と回答している。

#### 業況の実績・見通し(全産業) (%) 10 30 40 50 60 70 80 100 17.8 51.2 31.0 良い 普通 悪い 7.9 20.4 71.7 不変 悪化 上好転

表1 業 況 D I

			2018年度 上期実績	2018年度 下期実績	2019年度 上期実績	2019年度 下期実績	2020 年度 上期見通し
全	産	業	$\triangle 6.2$	△10.5	△11.6	△33.4	△63.8
製	造	業	0.6	△20.9	△22.4	△35.9	△64.7
食		品	17.4	17.6	22.2	$\triangle 25.0$	$\triangle 43.8$
=	ッ	ト	$\triangle 25.0$	0.0	$\triangle 25.0$	$\triangle 20.0$	△80.0
織		物	$\triangle 41.7$	△81.8	△58.3	$\triangle 91.7$	$\triangle 91.7$
製		材	△80.0	$\triangle 40.0$	20.0	△80.0	△80.0
家		具	△33.3	$\triangle 66.7$	33.3	$\triangle 33.3$	$\triangle 33.3$
和	紙 · 紙 製		$\triangle 45.5$	$\triangle$ 50.0	37.5	$\triangle 10.0$	$\triangle$ 70.0
宝		飾	$\triangle 29.4$	$\triangle 44.4$	$\triangle 29.4$	$\triangle 66.7$	$\triangle 100.0$
電	気 機	械	0.0	$\triangle 36.4$	$\triangle 36.4$	$\triangle 13.0$	$\triangle 56.5$
生	産 用 機	械	36.4	13.0	△31.8	$\triangle 15.0$	$\triangle$ 50.0
輸	送 機	械	16.7	$\triangle 27.3$	$\triangle 72.7$	$\triangle 63.6$	$\triangle$ 90.9
汎月	目 • 業務用 <b>#</b>	幾 械	23.5	16.7	$\triangle 28.6$	$\triangle 22.7$	$\triangle$ 50.0
プ	ラスチッ	ク	44.4	△33.3	△11.1	$\triangle 37.5$	$\triangle 37.5$
非	製 造	業	△13.4	0.0	$\triangle 0.7$	$\triangle 30.7$	$\triangle 62.9$
建		設	3.7	3.7	7.1	4.0	$\triangle 40.0$
卸		壳	$\triangle 40.9$	△8.7	$\triangle 21.7$	$\triangle 52.4$	$\triangle 66.7$
小		壳	$\triangle 27.3$	$\triangle 9.7$	$\triangle 25.0$	$\triangle 7.4$	$\triangle 66.7$
ホ	テル・旅		$\triangle 11.1$	$\triangle 14.3$	8.3	△84.2	$\triangle 73.7$
運		輸	0.0	$\triangle 20.0$	0.0	$\triangle 60.0$	△80.0
レ	ジャ	_	$\triangle 27.3$	25.0	25.0	△58.3	$\triangle 91.7$
サ	ー ビ	ス	8.7	31.8	26.3	4.8	$\triangle 42.9$

#### 2 生 産

#### 2019 年度下期実績

全産業(製造業および建設業)の実績DI (「増加」-「減少」) は、 $\triangle$  10.4 と前期 ( $\triangle$  17.1) と比べて 6.7 ポイント上昇したが、引き続き「減少」超となった。

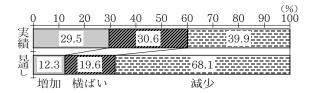
このうち機械関連では、輸送、汎用・業務用、電気の各機械が「減少」超となった。機械関連以外では、建設、プラスチックが「増加」超となった一方、製材、織物、宝飾、食品、和紙・紙製品は「減少」超となった。

#### 2020 年度上期見通し

全産業(製造業および建設業)の見通しDI (「増加」-「減少」)は、△55.8と「減少」超 となっている。

このうち機械関連では、輸送、生産用、電気、 汎用・業務用の全機械が「減少」超となっている。また、機械関連以外も、家具以外のすべて の業種で「減少」超となるなど、新型コロナウ イルス感染症の影響で、多くの先が減産を見込 んでいる。

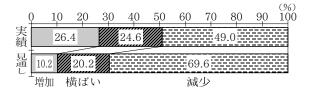
#### 図2 生産の実績・見通し(製造業・建設業)



#### 表2 生 産 D I

	2018年度 下期実績	2019年度 上期実績	2019年度 下期実績	
全産業	1.8	△17.1	△10.4	△55.8
製造業	△2.9	△18.3	△18.8	$\triangle$ 56.5
建設業	29.2	△10.7	36.0	△52.0

#### 図3 売上の実績・見通し(全産業)



#### 3 売 上

#### 2019 年度下期実績

全産業の実績 D I (「増加」 - 「減少」) は △ 22.6 と前期 (△ 8.9) と比べて 13.7 ポイン ト低下し、「減少」 超となった。

製造業は、△20.9と前期(△23.7)と比べて2.8 ポイント上昇したが、「減少」超となった。このうち機械関連では、生産用機械が「増加」超となった一方、輸送、汎用・業務用、電気の各機械は「減少」超となった。機械関連以外では、ニット、プラスチックが「増加」超となった一方、製材、織物、宝飾、家具、食品、和紙・紙製品は「減少」超となった。

非製造業は、△24.5と前期(6.0)と比べて30.5ポイント低下し、「減少」超に転じた。建設が「増加」超となった以外は、すべての業種で「減少」超となった。特に、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたホテル・旅館で9割以上の先が、レジャー、運輸で6割以上の先が「減少」と回答した。

#### 2020年度上期見通し

**全産業の見通しDI(「増加」−「減少」)は、**△ 59.4 と大幅な「減少」超となっている。

製造業は、△62.1 と「減少」超となっている。 このうち機械関連では、輸送、電気、生産用、 汎用・業務用の全機械が「減少」超となっている。 また、機械関連以外でも、すべての業種で「減 少」超となるなど、総じて厳しい見方をしてい る。特に、宝飾、織物では9割以上の先が減収 を見込んでいる。

非製造業も、 $\triangle$  56.4 と「減少」超となっている。すべての業種で「減少」超となっており、特に、運輸、ホテル・旅館では約8割の先が減収を見込んでいる。

表3 売 上 D I

	2018年度 下期実績		2019年度 下期実績	
全産業	5.6	△8.9	△22.6	△59.4
製造業	5.2	$\triangle 23.7$	△20.9	△62.1
非製造業	6.0	6.0	△24.5	$\triangle 56.4$

### 4 在 庫

#### 2019 年度下期実績

「減少」超となった。

全産業の実績DI(「増加」-「減少」)は、
△1.5と前期(△2.4)と比べて0.9ポイント
上昇したものの、引き続き「減少」超となった。
製造業は、△1.3と前期(△1.3)に続き「減少」
超となった。このうち機械関連では、輸送機械
が「減少」超へ転じたほか、生産用機械、汎用・
業務用機械も引き続き「減少」超となった。機
械関連以外では、家具、織物、和紙・紙製品、食品、宝飾が「増加」超となった一方、製材は

非製造業は、 $\triangle 2.1$ と前期( $\triangle 5.5$ )と比べて3.4ポイント上昇したものの、引き続き「減少」超となった。業種別では、卸売が「増加」超に転じた一方、小売は「減少」超となった。

**在庫水準DI**(「過大」 - 「不足」)をみると、全産業では19.6となり、前期(20.8)を1.2ポイント下回ったものの、引き続き「過大」超となった。

製造業は、21.2で前期(21.7)から0.5ポイント低下したものの、引き続き「過大」超となった。このうち機械関連では、汎用・業務用、生産用、電気、輸送の全機械が「過大」超となった。機械関連以外では、和紙・紙製品、宝飾、家具、織物が「過大」超となった一方、製材、食品は「不足」超となった。

非製造業は、14.6と前期(18.2)と比べて 3.6 ポイント低下し、過剰感は弱まった。卸売が 42.9と前期 (43.5)とほぼ同水準となった一方、小売は「適正」と回答した先が 8 割以上を占め つつも、 $\triangle$  7.4 で「不足」超となった。

#### 2020年度上期見通し

全産業の見通しDI(「増加」−「減少」)は、 △19.2 と「減少」超となっている。

製造業は、△25.2 と「減少」超となっている。 このうち機械関連では、生産用機械が「増加」 超となっている一方、輸送、電気、汎用・業務 用の各機械は「減少」超となっている。機械関 連以外では、ニットが「増加」超となっている 以外は、すべての業種で「減少」超となっている。。

非製造業は、「増加」先と「減少」先が同数となっている。業種別では卸売が「増加」超となっている一方、小売は「減少」超となっている。

図4 製品(商品)在庫の実績・見通し(全産業)

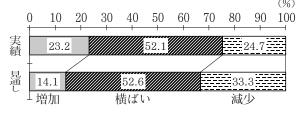


図5 製品(商品)在庫水準(全産業)

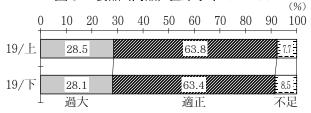


表4 在 庫 D I

				在庫増減DI				在庫水準DI		
			2018 年度 下期実績	2019 年度 上期実績	2019 年度 下期実績	2020 年度 上期見通し	2018年度 下期実績	2019 年度 上期実績	2019 年度 下期実績	
全	産	業	△ 0.5	△ 2.4	△ 1.5	△ 19.2	18.4	20.8	19.6	
製	造	業	$\triangle$ 5.3	△ 1.3	△ 1.3	$\triangle 25.2$	19.0	21.7	21.2	
非	製 造	業	13.2	△ 5.5	$\triangle 2.1$	0.0	16.7	18.2	14.6	

#### 5 仕入・販売価格

#### (1) 仕入価格

#### 2019 年度下期実績

全産業の実績 D I (「上昇」 - 「下落」) は、 17.6 と前期 (27.7) を 10.1 ポイント下回った ものの、引き続き「上昇」超となった。

製造業は、14.4と前期(28.5)と比べて 14.1 ポイント低下したが、引き続き「上昇」超となった。このうち機械関連では、汎用・業務用、生産用、電気の各機械が「上昇」超となった。機械関連以外では、宝飾、ニット、食品、プラスチック、和紙・紙製品が「上昇」超となった一方、製材は「下落」超に転じた。

非製造業は、21.8 と前期(26.7)と比べて 4.9 ポイント低下したものの、引き続き「上昇」超となった。業種別では、運輸が「下落」超となった以外は、「上昇」超となった。

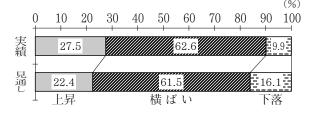
#### 2020 年度上期見通し

全産業の見通しDI(「上昇」-「下落」)は、 6.3 で、引き続き「上昇」超となっている。

このうち製造業は1.3 で、「上昇」超となっている。業種別では、和紙・紙製品、ニットなどが「上昇」超となっている一方、プラスチック、製材などは「下落」超となっている。

非製造業は 12.6 で、運輸を除くすべての業種で、「上昇」超となっている。

#### 図6 仕入価格の実績・見通し(全産業)



#### (2) 販売価格

#### 2019 年度下期実績

全産業の実績 D I (「上昇」 - 「下落」) は、 △1.7 と前期 (5.3) を 7.0 ポイント下回り、7 期ぶりに「下落」超に転じた。

製造業は、△3.3と前期(0.7)と比べて4.0 ポイント低下し、「下落」超に転じた。このうち機械関連では、生産用機械、汎用・業務用機械で「上昇」先と「下落」先が同数となった一方、輸送機械、電気機械は「下落」超となった。機械関連以外では、食品、宝飾、和紙・紙製品が「上昇」超となった一方、家具、製材、織物は「下落」超となった。

非製造業は、0.0 と「上昇」先と「下落」先が拮抗した。業種別でみると、ホテル・旅館で「下落」と回答した先が4割以上を占めた。

#### 2020年度上期見通し

全産業の見通しDI(「上昇」 - 「下落」)は、  $\triangle$  15.4 で、引き続き「下落」超となっている。

このうち製造業は△19.6で、和紙・紙製品が「上昇」超となっている一方、ニット、輸送機械などは「下落」超となっている。

非製造業は $\triangle$  10.7 で、サービス、建設が「上昇」超、レジャー、ホテル・旅館、運輸などが「下落」超となっている。

#### 図7 販売価格の実績・見通し(全産業)

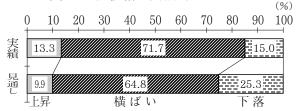


表5 仕入·販売価格DI

ſ						仕入価格 D I				販売価格DI			
			\		2018年度 下期実績		2019年度 下期実績	2020 年度 上期見通し		2019年度 上期実績			
	全	産		業	44.3	27.7	17.6	6.3	7.9	5.3	△ 1.7	△ 15.4	
İ	製	造	į	業	42.5	28.5	14.4	1.3	7.8	0.7	△ 3.3	△ 19.6	
	非	製	造	業	46.5	26.7	21.8	12.6	7.9	10.0	0.0	△ 10.7	

#### 6 収 益

#### 2019 年度下期実績

## 全産業の実績 D I (「増加」-「減少」) は、 △ 22.9 と前期 (△ 14.9) と比べて 8.0 ポイン ト低下し、引き続き「減少」超となった。

製造業は、△17.6と前期(△30.3)と比べて12.7ポイント上昇したものの、引き続き「減少」超となった。このうち機械関連では、電気機械、生産用機械が「増加」超となった一方、輸送機械、汎用・業務用機械は「減少」超となった。機械関連以外では、ニット、プラスチックを除くすべての業種で「減少」超となり、特に製材、織物で「減少」と回答した先が8割以上を占めた。

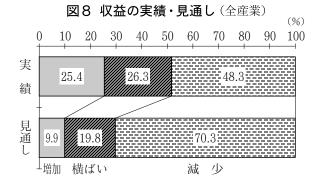
非製造業は、△28.8と前期(0.7)と比べて29.5ポイント低下し、「減少」超に転じた。建設を除くすべての業種で「減少」超となった。新型コロナウイルス感染症拡大の影響でインバウンド需要が激減したほか、国内での外出自粛の動きも広がったことから、ホテル・旅館で「減少」と回答した先が9割以上を占めた。

#### 2020年度上期見通し

## 全産業の見通しDI(「増加」−「減少」)は、 △60.4と大幅な「減少」超となっている。新 型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、景気の 先行きに対する厳しい見方が強まっており、す べての業種で収益の悪化を見込んでいる。

製造業は、△62.1 と「減少」超となっている。 このうち機械関連では、輸送、電気、生産用、 汎用・業務用の全機械で「減少」超となっており、 輸送機械で8割以上、電気機械、生産用機械で 7割以上の先が「減少」と回答している。機械 関連以外では、すべての業種で「減少」超となっ ており、特に織物、宝飾は「減少」と回答した 先が9割以上を占めている。

非製造業は、 $\triangle$  58.6 と「減少」超となっている。すべての業種で「減少」超となっており、特に運輸では「減少」と回答した先が 8 割を占めている。



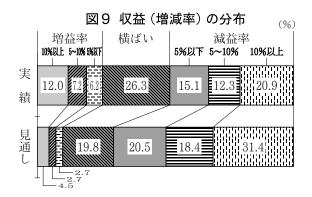


表6 収益 D I

				2018年度下期実績	2019年度上期実績	2019年度下期実績	2020年度上期見通し
全	産		業	△ 3.6	△ 14.9	△ 22.9	△ 60.4
製	갵	Ì	業	$\triangle 2.6$	△ 30.3	△ 17.6	△ 62.1
非	製	造	業	$\triangle 4.7$	0.7	△ 28.8	△ 58.6

#### 7 資金繰り

#### 2019 年度下期実績

全産業の実績 D I (「好転」 - 「悪化」) は、 △ 21.2 と前期 (△ 5.0) と比べて 16.2 ポイン ト低下し、引き続き「悪化」超となった。

製造業は、△22.9と前期(△14.5)と比べて8.4 ポイント低下し、引き続き「悪化」超となった。このうち機械関連では、輸送、生産用、汎用・業務用、電気の全機械で「悪化」超となった。機械関連以外では、ニットを除くすべての業種で「悪化」超となった。なお、ニットは全ての先が「横ばい」と回答した。

非製造業は、 $\triangle$  19.4 と前期(4.7)と比べて 24.1 ポイント低下し、「悪化」超に転じた。建設を除くすべての業種で「悪化」超となり、特に旅館・ホテルで「悪化」と回答した先が8割弱を占めた。

#### 2020年度上期見通し

全産業の見通しDI(「好転」-「悪化」)は、 △41.8と「悪化」超となっている。

製造業は、△46.4と「悪化」超となっている。 このうち機械関連では、輸送、生産用、電気、 汎用・業務用の全機械で「悪化」超となってい る。特に輸送機械では、「悪化」と回答した先 が8割以上を占めている。機械関連以外でも、 すべての業種で「悪化」超となっている。特に 宝飾で8割以上、織物で7割以上の先が「悪化」 と回答している。

非製造業は、 $\triangle$  36.7 と「悪化」超となっている。すべての業種で「悪化」超となっており、特にホテル・旅館で「悪化」と回答した先が7割以上を占めている。

図10 資金繰りの実績・見通し(全産業)

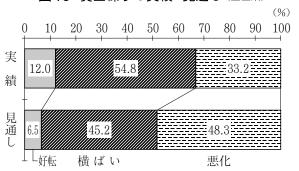


表7 資金繰りDΙ

	_				and the base of the state of the		
				2018年度卜期実績	2019年度上期実績	2019年度卜期実績	2020年度上期見通し
全	百	<u> </u>	業	△ 2.3	△ 5.0	△ 21.2	△ 41.8
製	造	Î	業	$\triangle$ 6.5	△ 14.5	$\triangle$ 22.9	△ 46.4
非	製	造	業	2.0	4.7	△ 19.4	△ 36.7

#### 8 設備投資(5百万円以上)

#### 2019 年度下期実績

2019 年度下期の実施率は、37.9%と前期 (41.3%) を 3.4 ポイント下回った。また、投 資額増減の実績 D I (「増加」 - 「減少」) は、 △ 7.2 と前期 (△ 2.3) と比べて 4.9 ポイント 低下し、引き続き「減少」超となった。

製造業は、実施率が39.9%と前期(40.8%)を0.9ポイント下回った。このうち機械関連では、電気機械、汎用・業務用機械が上昇した一方、生産用機械、輸送機械は低下した。機械関連以外では、プラスチック、ニット、織物が上昇した一方、和紙・紙製品、宝飾は低下した。

また、投資額の増減は、 $\triangle$  4.6 と前期 ( $\triangle$  6.0) と比べて 1.4 ポイント上昇した。ニット、電気 機械、織物などが「増加」超となった一方、輸 送機械、宝飾、製材などは「減少」超となった。

非製造業は、実施率が 35.7%と前期 (41.7%) を 6.0 ポイント下回った。ホテル・旅館、サービスが上昇した一方、運輸、レジャー、小売、建設、卸売は低下した。

また、投資額の増減は、△10.1と前期(1.3) と比べて11.4ポイント低下し、「減少」超に転 じた。建設が「増加」超となった一方、レジャー、 ホテル・旅館、小売、卸売、サービスは「減少」 超となった。

投資目的(複数回答)については、製造業では、「合理化・省力化」、「補修・更新」、「能力拡大」の順となり、前期と比べて「合理化・省力化」の上昇、「能力拡大」の低下が目立った。また、非製造業では、「補修・更新」、「能力拡大」、「合理化・省力化」の順となり、前期と比べて「品質向上」、「合理化・省力化」の上昇、「補修・更新」の低下が目立った。

図11 設備投資の実績・見通し(全産業)

10 20 30 40 50 60 70 80 90 100

24.6

24.6

20.1

62 11.6

投資なし

5 千万円~1 億円未満

図 12 設備投資額増減の実績・見通し(全産業)

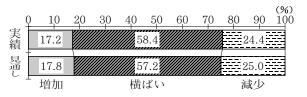


表8 設備投資額増減の実績・見通しDI

	2018年度 下期実績	2019年度 上期実績	2019年度 下期実績	
全産業	0.3	△2.3	△7.2	$\triangle 7.2$
製造業	0.0	△6.0	$\triangle 4.6$	$\triangle 5.9$
非製造業	0.7	1.3	△10.1	△8.6

図 13 設備投資内容の実績・見通し(全産業)



図14 設備投資実施企業割合の推移(全産業)

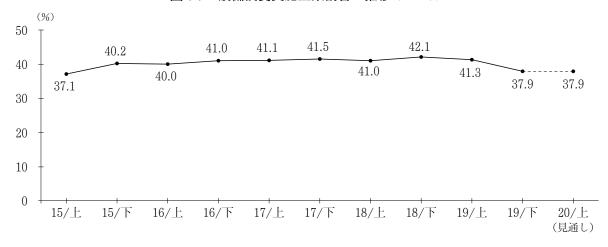


図 15 設備投資実施企業割合の推移(製造業)

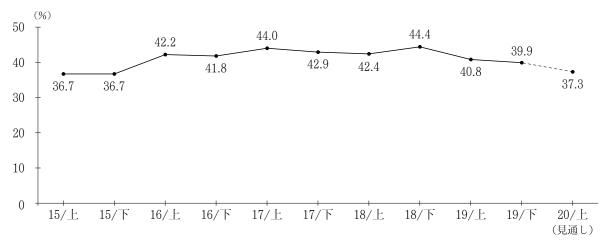
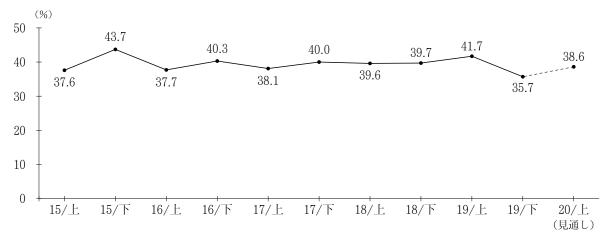


図 16 設備投資実施企業割合の推移(非製造業)



#### 2020年度上期計画

2020 年度上期の実施予定率は、37.9%で前期実績(37.9%)と同水準となっている。また、投資額増減の見通しDI(「増加」-「減少」)は、 $\triangle$  7.2 と「減少」超となっている。

製造業は、実施予定率が37.3%と前期実績(39.9%)と比べて2.6ポイント低下している。このうち機械関連では、輸送機械が上昇する一方、電気機械は低下している。機械関連以外では、和紙・紙製品が上昇する一方、プラスチック、食品、ニット、織物は低下している。

また、投資額の見通しは、△5.9と「減少」 超となっている。和紙・紙製品、プラスチック、 生産用機械が「増加」超となっている一方、宝飾、 ニット、製材、汎用・業務用機械、織物、食品 は「減少」超となっている。

非製造業は、実施予定率が 38.6%と前期実績 (35.7%) を 2.9 ポイント上回っている。ホテル・旅館、サービス、小売が上昇する一方、レジャー、 建設、 卸売は低下している。

また、投資額の見通しは、△8.6と「減少」

超となっている。サービス、ホテル・旅館、建設が「増加」超となっている一方、卸売、レジャー、運輸、小売は「減少」超となっている。

投資目的(複数回答)については、製造業では「補修・更新」・「能力拡大」(同率)、「合理化・省力化」の順となり、前期実績と比較して「能力拡大」の上昇、「合理化・省力化」の低下が目立っている。非製造業では「補修・更新」、「能力拡大」、「合理化・省力化」の順となり、前期実績と比較して「環境対策」の上昇、「品質向上」の低下が目立っている。

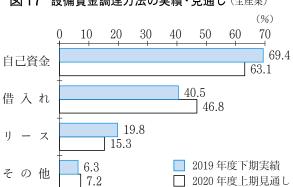
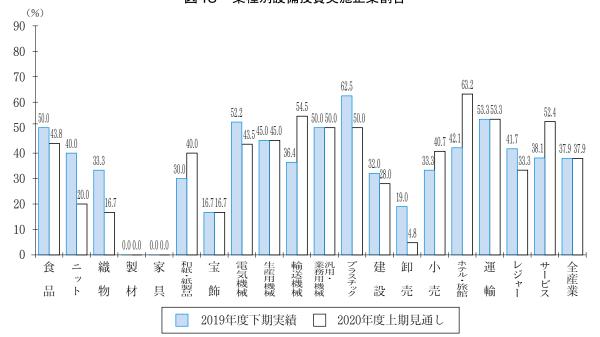


図 17 設備資金調達方法の実績・見通し(全産業)





# 9 経営上の問題点

当面する経営上の問題点(3項目選択)は、 「売上不振」が47.4%と最多で、以下、「従業 員の高齢化」(29.4%)、「収益悪化」(28.3%)、 「人材・技術不足」(24.9%)、「労働力不足」 (18.8%) と続いた。

前期と比較すると、海外経済の減速や消費税 増税の影響に加え、足元での新型コロナウイル ス感染症の拡大を受け景気が急速に冷え込んだ ことを背景に「売上不振」が15.4ポイントと 大幅に上昇したほか、「収益悪化」、「資金繰り難」 など関連する項目も上昇した。一方、企業業績 の悪化等により労働需給の逼迫感が薄れたこと から、前回1位の「労働力不足」が13.2ポイントと大幅に低下し5位に後退した。

業種別にみると、製造業では、「売上不振」(50.3%)、「収益悪化」(32.7%)、「従業員の高齢化」(28.1%)、「人材・技術不足」(22.9%)、「競争激化」(16.3%)の順となった。前期と比較すると、「収益悪化」(前期比+9.0ポイント)、「売上不振」(同+8.9ポイント)が大きく上昇したほか、「資金繰り難」(同+4.5ポイント)なども上昇した。

非製造業では、「売上不振」(44.3%)、「従業員の高齢化」(30.7%)、「人材・技術不足」(27.1%)、「労働力不足」(25.0%)、「収益悪化」(23.6%)の順となった。前期と比較すると「売上不振」(同+21.8ポイント)の上昇が目立った。一方、「労働力不足」(同△22.7ポイント)は大幅に低下しており、特に非製造業で人手不足感の緩和が進んでいる様子が窺われる。

表9 経営上の問題点(全産業)

	比	率	順	位
	前回	今回	前回	今回
	(%)	(%)		
売 上 不 振	32.0	47.4	1	1
従業員の高齢化	30.0	29.4	3	2
収 益 悪 化	20.8	28.3	6	3
人材•技術不足	27.4	24.9	4	4
労 働 力 不 足	32.0	18.8	1	5
競 争 激 化	24.1	17.4	5	6
後継者育成	18.2	16.0	7	7
人件費増大	16.8	13.7	8	8
資金繰り難	7.6	13.0	11	9
原材料•商品入手難	3.6	8.2	14	10
販売(受注)価格低下	11.6	7.2	10	11
仕入価格高騰	14.9	6.5	9	12
在 庫 過 剰	6.9	6.1	12	13
設 備 不 足	5.3	4.1	13	14
為替レート	2.6	3.4	15	15
労働力過剰	2.3	1.7	16	16
在 庫 不 足	1.7	1.7	17	16
代金回収難	0.3	1.7	18	16
設 備 過 剰	0.0	0.0	19	19
その他	5.3	9.6	_	_

表10 経営上の問題点 業種別上位5項目

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全 産 業	売 上 不 振	従業員の高齢化	収益悪化	人材・技術不足	労働力不足
製造業	売上不振	収益悪化	従業員の高齢化	人材・技術不足	競争激化
食 品	収益悪化	売上不振、人	材•技術不足	従業員の高齢化	、仕入価格高騰
ニット	売上不振、	士入 価 格 高 騰、	人件費增大	従業員の高齢化、人材	・技術不足ほか 4 項目
織物	売上不振	収益悪化	従業員の高齢	化、在庫過剰、	、資金繰り難
製材	売上不振、	収益悪化、	競争激化	人材・技術不足、労	労働力不足ほか2項目
家具	売 上 不 振 、 往	英業員の高齢化	上、 収 益 悪 化	後継者育局	戈、その他
和紙・紙製品	売上不振	従業員の高齢化	収益悪化、人材	• 技術不足、資金網	最り難ほか1項目
宝飾	売上不振	収益悪化	販売(受注)価格値	<b>氐下、</b> 仕入価格高騰	在庫過剰、 為替レート
電気機械	売上不振、	収益悪化	従業員の高齢化	人材•技術不足	労働力不足 ほか1項目
生産用機械	人材・技術不足	従業員の高齢化	収益悪化	競争激化	売 上 不 振ほか 2 項目
輸送機械	売上不振	競争激化	人材•技術不	足、設備不足	従業員の高齢化 ほ か 3 項 目
汎 用 • 業務用機械	売上不振	従業員の高齢化	収益悪化、	資金繰り難	労働力不足 ほか2項目
プラスチック	従業員の高齢化	<b>と、</b> 後継者育成	売上不振	収益悪化、人材・持	技術不足ほか2項目
非製造業	売上不振	従業員の高齢化	人材•技術不足	労働力不足	収益悪化
建 設	従業員の高齢化	労働力不足	人材·技術不	足、競争激化	原材料•商品入手難
卸売	売上不振	従業員の高齢化	収益悪化	労働力不足	ほか2項目
小売	売上不振	競争激化	従業員の高齢化	<b>匕、</b> 人件費増大	人材・技術不足 ほか 1 項 目
ホテル・旅館	売上不振	収益悪化、	資金繰り難	人件費増大	従業員の高齢化 ほか4項目
運輸	売上不振	従業員の高齢化	人件費増大	収益悪化	人材•技術不足
レジャー	売上不振	収益悪化	人材·技術不	足、労働力不足	、資金繰り難
サービス	労働力不足	人材・技術不足	売上不振、	人件費増大	収益悪化

#### 10 雇 用

2019 年度下期の雇用 D I (「過剰」 - 「不足」) は、△21.5 と前期 (△30.0) と比べて 8.5 ポイント上昇したものの、引き続き「不足」超となった。

製造業は、△9.2 と引き続き「不足」超となったが、前期(△11.8)と比べて2.6 ポイント上昇するなど、不足感は弱まった。このうち機械関連では、生産用、電気、汎用・業務用の各機械が「不足」超となった一方、輸送機械は「過剰」超となった。機械関連以外では、ニットが「過剰」超となった一方、家具、和紙・紙製品、プラスチック、食品は「不足」超となった。

非製造業は、 $\triangle$  35.0 と前期 ( $\triangle$  48.3) と比べて 13.3 ポイント上昇したものの、引き続き「不足」超となった。ホテル・旅館を除くすべての業種で「不足」超となった。一方、ホテル・

旅館は前期と比べて50.0 ポイントの大幅な上昇となっており、不足感が急激に弱まった。

今後の対策では、「現状維持」(48.6%)が最多で、以下、「正社員の採用」(28.8%)、「アルバイト・パートの補充」(6.9%)と続いている。前期と比較すると、「現状維持」の上昇が目立つ一方、「正社員の採用」は大きく低下している。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い景気の先行き不透明感が強まっているなか、正社員の採用に対する企業の慎重姿勢が窺える。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに「現状維持」、「正社員の採用」の順となっている。なお、前期との比較では、製造業では「正社員の採用」の低下が、非製造業では「正社員の採用」および「パート・アルバイトの補充」の低下が目立っている。

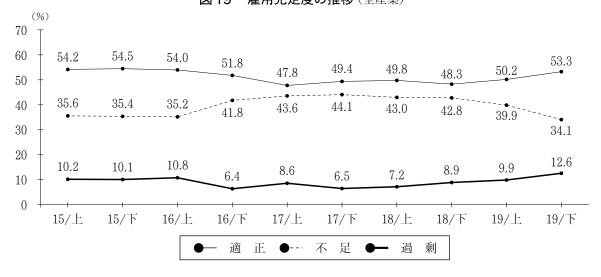
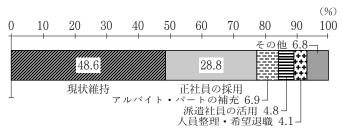


図19 雇用充足度の推移(全産業)

表11 雇用DI

	2018年度 下期実績	2019年度 上期実績	2019年度 下期実績
全産業	△ 33.9	△ 30.0	△ 21.5
製造業	$\triangle$ 25.5	△ 11.8	$\triangle$ 9.2
非製造業	△ 42.4	△ 48.3	△ 35.0

図20 雇用の今後の対策(全産業)



法人・個人事業主さま

さまざまな事業のお悩みを解決します

# 法人向け WEB 相談受付サービス



資金調達

**ノサル** ビジネス ィングマッチング

- ■資金調達(ご融資、私募債、ファンド 他)
- コンサルティング(ICT導入、公的支援策活用、人事・労務他)
- ビジネスマッチング(販売先、仕入先他)
- 各種情報

- ●資金管理・運用
- 国際業務・海外展開
- その他

※ご相談につきましては、お客さまへ電話・メールまたは訪問にて対応させていただきます。 ※ご相談内容は、ご希望の店舗と共有させていただきます。

◎当行ホームページ「法人向け WEB 相談受付サービス」からご相談いただけます。

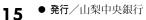
URL: https://yamanashibank.secure.force.com/soudan/YCB\_ConsultationForm



ふれあい、さわやか

山犁中央銀行

https://www.yamanashibank.co.jp/ 2020年3月16日現在



● 編集/山梨中銀経営コンサルティング 〒400-0031 甲府市丸の内一丁目 20番8号 TEL (055) 224-1032

